

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0210

(注)本稿は 2011 年 12 月 7 日と 15 日、「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2011.12.15

前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)22カ国の「腐敗認識指数」(2011年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その14)

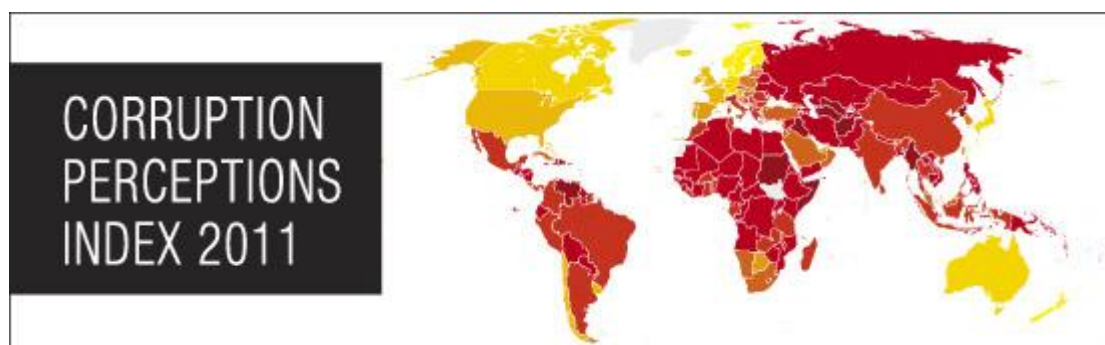
東はアフガニスタンから西はモーリタニアまでの MENA(中東・北アフリカ)22カ国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。

第14回のランキングは、汚職追放を目指す世界の NPO 法人 Transparency International(略称:TI、本部ベルリン)が毎年発表している「Corruption Perception Index(腐敗認識指数)」について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

* ホームページ

TI 本部: <http://www.transparency.org/>

日本支部: <http://www.ti-j.org/>



1. 「Corruption Perception Index (腐敗認識指数)」について

Corruption Perception Index(CPI, 腐敗認識指数)は、公務員と政治家がどの程度腐敗しているか、その度合いを国際比較し、国別にランキングしたものである。ベルリンに本部のある NPO 法人 Transparency International(TI)が手がけており、日本にはその支部「NPO 法人トランスペアレンシ

ー・ジャパン」がある。

CPI は1995年に第一回の指数を発表、今年で17回目である。調査当初は対象国が41カ国、調査内容も7種類と小規模であったため、各国からは調査結果に対する不満が出たが、回を重ねるに従い内容の信頼性も高まっており、今年の調査対象国183カ国に達している。

評価は各国の実業家或いは分析専門家など実務で腐敗の現場に直面している人々の経験や認識に基づくアンケートを統計処理したものであり、CPIは0から10までのスコアで国を採点している。0点は最も腐敗していると考えられる国を、10点は最も透明性が高い国であることを示している。

2. MENA 諸国のCPI指数と順位

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-14aCpi2011.pdf> 参照)

MENA22カ国の中で最も腐敗度が低いと評価されたのはカタール(CPI指数7. 2)である。同国の世界順位は22位で米国(24位)よりも高い。カタールに次ぐ第2位は UAE(CPI指数6. 8)で世界順位28位である。以下世界50位以内はイスラエル(CPI指数5. 8、世界36位)、バハレーン(同5. 1、46位)、オマーン(同4. 8、50位)の5カ国である。これら5カ国のうちカタール、UAE、バハレーン及びオマーンの4カ国はGCC(湾岸協力会議)を構成する産油国である。専制君主制国家であるこれらの国々の腐敗度が低いと評価されていることは注目に値する。

これに対してMENA諸国の中で腐敗度が高いのは、アフガニスタン(CPI 指数1. 5、世界順位180位)、スーダン(同1. 6、177位)、イラク(同1. 8、175位)である。これら3カ国は CPI 指数が1点台と低く、世界183カ国の最下位グループに位置している(ちなみに最下位は北朝鮮及びソマリア)。CPIレポートは「貧困と腐敗の間には強い相関関係がある」と指摘しているが、カタールなどの上位国とスーダンなどの最下位国との経済的格差が腐敗度の格差として表れていることがわかる。

上位5カ国と下位3カ国との中間に位置している国は14カ国である。MENA6位以下はクウェイト(CPI指数4. 6、世界54位)、ヨルダン(同4. 5、56位)、サウジアラビア(4. 4、57位)、トルコ(4. 2、61位)、チュニジア(3. 8、73位)、モロッコ(3. 4、世界80位)である。以上11カ国が世界順位100位以上である。クウェイト及びサウジアラビアはカタールなどと同じGCCの一員であるが、他のGCC各国よりも腐敗度が高いと評価されている。

モロッコに続くMENA12位はアルジェリア及びエジプトである。両国のCPI 指数は2. 9であり世界順位も112位にとどまっており、80位のモロッコとの間にかなり格差がある。以下はイラン(指数2. 7、世界120位)、シリア(2. 6、129位)、レバノン(2. 5、134位)、モーリタニア(同2. 4、143位)、イエメン(2. 1、164位)、リビア(2. 0、168位)と続いている。そしてイラク、スーダン、アフガニスタンは上述の通りCPI 指数が2. 0未満であり、世界の最下位グループを形成している。

ちなみに世界でCPI指数が最も高い国(即ち腐敗度が最も低いとされた国)はニュージーランドでそのCPI指数は9. 5である。日本はCPI指数8. 0、世界14位とされており、これは MENA トップの

カタール(世界22位)或いは米国(同24位)よりもかなり高い。また中国はCPI指数3.6、世界順位75位で世界平均をやや上回っており、MENA ではチュニジア或いはモロッコと同レベルである。

MENA の平均世界順位は99位である。MENA22カ国中世界50位以内の国が5カ国ある一方、100位以下の国が11カ国あるため平均的な順位が低く抑えられる結果となっている。MENA は各国の腐敗度の格差が大きい地域と言える。

3. 2007－2011年の世界順位の変化

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-14bCpi07-11.pdf> 参照)

2007－2011年の MENA22カ国の世界順位の変動を見ると、カタールは2007年の32位から2009年には22位に上昇、その後も19位(10年)、22位(11年)と20位前後を維持しており、昨年、今年と連続して米国を上回っている。その他の GCC 諸国も、サウジアラビアは79位(07年)→80位(08年)→63位(09年)→50位(10年)→57位(11年)と80位前後から50位台へと大幅に順位を上げている。UAE は34位→35位→30位→28位→28位、またクウェイトも60位→65位→66位→54位→54位とここ2年間で順位が向上している。

今年「アラブの春」と呼ばれる変革に見舞われた国を見ると、チュニジアは61位→62位→65位→59位→73位、エジプト105→115位→111位→98位→112位となっており、2010年までは世界順位を上げていたが、2011年はいずれも順位を下げている。またイエメンは131位→141位→154位→146位→164位とほぼ毎年順位を下げている。

イスラエルは30位(07年)→33位(08年)→32位(09年)→30位(10年)→36位(11年)と世界順位は30位台を上下しているが、カタール、UAE の2カ国が急速に世界順位をあげた結果 MENA の順位は07年の1位から08年には2位に下がり09年以降は3位にとどまっている。

MENA 全体の平均世界順位は94位(07年及び08年)→98位(09年)→95位(10年)→99位(11年)と下がり気味であり MENA 地域の腐敗度は改善の兆しが見られない。腐敗と貧困の間には強い相関関係があるとされ、またその背景に治安の悪化という政治的要因がある。MENA地域全般で腐敗と貧困と治安の悪化という負の連鎖を断ち切ることが求められていると言えよう。

4. MENA5カ国と日本、米国の CPI 指数の変化(2007～2011年)

(図<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-14cCpi07-11Graph.pdf>参照)

2007年から2011年までの5年間について、MENA 平均、カタール、チュニジア、エジプト、イラン4カ国のCPI指数の変化を日本及び米国と比較すると、カタールは2007年のCPI指数6.0が急速に改善し2010年には7.7となり米国(7.1)を上回り日本(7.8)に肉薄している。2011年の指数は7.2に低下したが米国(7.1)よりも上位である。

チュニジアの場合は4.2(07年)→4.4(08年)→4.2(09年)→4.3(10年)→3.8(11年)と低迷して特に今年は落ち込みが大きい。MENA 平均は3.6(07年～09年)→3.7(10年)→3.6(11

年)と殆ど改善しておらず、エジプトもほぼ同様の傾向を示している。イランは2007年から2009年までは CPI 指数が急落しており(2.5→2.3→1.8)、2009年には世界180カ国中の168位に落ち込んだが、その後 CPI 指数は2.2(10年)→2.7(11年)に大きく改善し、2011年には世界183カ国中の120位に上がっている。

日本は7.5(07年)→7.3(08年)→7.7(09年)→7.8(10年)→8.0(11年)と07年から08年にかけて CPI 指数は落ちたものの、それ以後は毎年上昇しており、世界順位も2011年には14位になっている。これに対して米国は7.2(07年)→7.3(08年)→7.5(09年)と3年間は指数がアップしたものの、10年、11年は一転して7.1に下落、世界順位も2010年にはカタールに追い抜かれ2011年は24位であった。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp